

讃岐国府推定地の発掘調査

香川県教育委員会によって、1977年から1981年にかけて（昭和52～56）、讃岐国府推定地の発掘調査が行われました。この調査では、りょくゆうがわら すずり 緑釉瓦や硯など、国府を思わせる貴重なものがいくつか発見されました。また、倉庫（国府にはいくつもの倉庫がありました）の跡も見つかりました。しかし、国府であることの確証は得られなかったのです。



▲ 須恵器
窯で焼かれた青灰色のやきものです。皿や椀など、主に食器などとして使われました。



▲ 緑釉瓦
緑色に発色するうぐすりをかけて焼かれた瓦です。

◀ 倉庫跡
1979年（昭和54）の発掘調査では倉庫跡が見つかりました。方形に並んでいる大きな穴は、倉庫の柱の跡です。

「讃岐国府跡探索事業」の開始



香川県埋蔵文化財センターでは、讃岐国府の位置と構造を明らかにするために2009年（平成21）から「讃岐国府跡探索事業」を始めました。この事業では、地域に古くから伝わっている地名の調査や、かつての景観を復元するための地形の調査、さらには発掘調査によって讃岐国府の中心地を確認しようとしています。

◀ 発掘調査のようす
2009年（平成21）の12月から讃岐国府推定地の発掘調査を始めました。

讃岐国府を探る

讃岐国府はどこにあったのかー

古代の香川県庁ともいえる讃岐国府。江戸時代以来、何人もその場所を探し求めてきましたが、いまだに特定できていません。

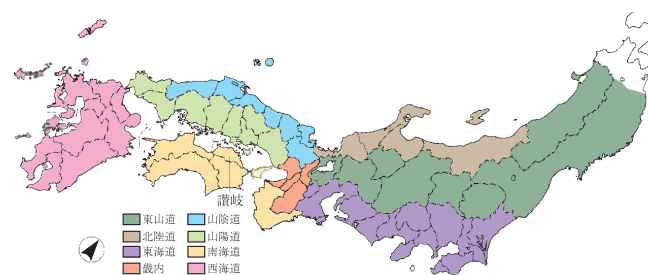
香川県埋蔵文化財センターでは、讃岐国府の位置と構造を明らかにするために、2009年（平成21）から「讃岐国府跡探索事業」を始めました。

国府とは

国府とは、奈良時代ころ（約1300年前）に全国の国ごとに置かれた役所で、現在の都道府県庁のような施設のことです。各地の国府は、都と連絡を取ったり、税を運搬したりするのに便利なように、大きな道路や港の近くにありました。

また、国府では、中央政府から派遣された役人が国司として政治を行っていました。国司とは現在の知事のような立場です。学問の神様として有名な菅原道真も讃岐国の国司を務めました。

平安時代の終わりころから、国府の施設は縮小し、やがて廃絶したと考えられています。このため、各地で国府のあった場所は忘れ去られてしまいました。

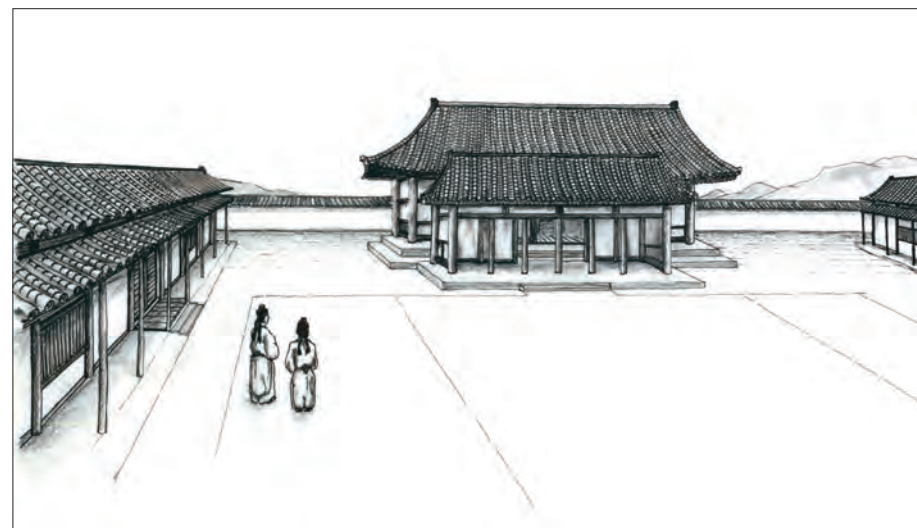


◀ 古代の行政区画
古代の日本は、都周辺の五畿（畿内）とその他の七道に分けられていました。讃岐国（おおむね現在の香川県）は南海道に属していました。



▲ 東帯天神像
（香川県立ミュージアム蔵・写真提供）

菅原道真は、886年に讃岐国の国司として都から赴任してきました。道真が残した漢詩には当時の讃岐国のようすも表されています。



◀ 讃岐国庁想像図
（越智広二氏作・下野国庁の復元図などを参考に作成）
国府の中心施設である国庁（政庁）では、正面に正殿（中心的な建物）があり、両側に細長い脇殿が配置されていました。中央の広場では儀式などが行われていたようです。

讃岐国府はどこにあったのか

平安時代の文献に現れる讃岐国府の位置

平安時代（約1,100年前）につくられた百科事典『倭名類聚抄』には、讃岐国府が阿野郡にあったことが記されています。阿野郡とは、おおよそ現在の坂出市東部、高松市国分寺町、綾歌郡綾川町の範囲にあたります。



古代讃岐国の郡

古代の讃岐国は11の郡に分かれていました。国府が置かれていた阿野郡は、讃岐国のほぼ中央に位置していました。

江戸時代の研究

江戸時代の『綾北問尋鈔』（約250年前）では国府が府中村にあった、とされています。当時の府中村は、現在の坂出市府中町にあたります。この後、『讃岐国名勝図会』（約150年前）では国府に関する地名が取り上げられ、府中村の本村に国府があったとの伝承が記されています。

明治・大正期の研究



▲ 国府史蹟地図（『讃岐国々府遺蹟考』財団法人鎌田共済会、1942年）
郷土史家・岡田唯吉により作成された讃岐国府推定地周辺の地図です。国府に関する地名が記されており、大正期における地名研究の到達点とも言えます。

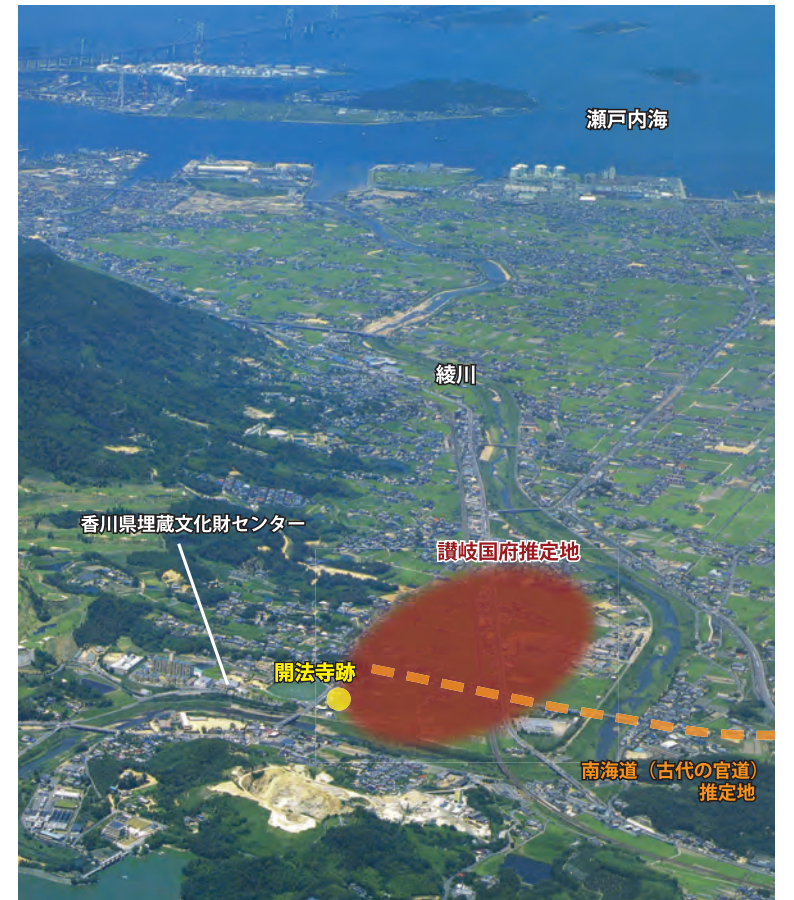
明治・大正期にも地名による讃岐国府の研究が行われ、国府の中心施設（国庁・政庁）の場所が推定されました。そしてその一面には「讃岐国庁跡碑」が建てられました。



▲ 讃岐国庁跡碑
1925年（大正14）、讃岐国府の中心地と推定された場所の一面に大きな碑が建てられました。現在でも訪れることができます。

戦後の研究

1960年（昭和35）以降、綾川の位置や、古代の官道（国によってつくられた幹線道路）である南海道の位置などから讃岐国府の範囲などが論じられてきましたが、大まかな場所は坂出市府中町本村地区を中心とした地域であると考えられています。



▶ 讃岐国府推定地周辺（四国新聞社提供の写真の一部改変）
讃岐国府推定地付近には、南海道（古代の官道）が通っていたと考えられています。また、近くを流れる綾川を下ると、瀬戸内海に出ます。綾川の河口付近には古代の港があったとされています。

讃岐国府と開法寺

平安時代（約1,100年前）に讃岐国に滞在した菅原道真の漢詩集には、開法寺という寺が国府内の役所の西にあると書かれています。このため、讃岐国府を探すうえで開法寺の位置は重要な材料とされてきました。

菅家文草（江戸時代の木版本・香川県立ミュージアム蔵・写真提供）

菅原道真の漢詩集・菅家文草には、注釈（補足のための注）として「開法寺在府衙之西（開法寺は府衙の西に在り）」と記されています。府衙は国府内の役所を指すと考えられています。



坂出市府中町本村地区には開法寺池と呼ばれる池があります。1970年（昭和45）、その池の東方で寺の塔跡が発見されました。その後、塔跡の北側で僧坊（僧が生活する建物）なども確認され、この場所に古代の寺のあったことが確実にになりました。この寺が開法寺ではないかと考えられています。

◀ 開法寺塔跡

塔跡の発見により、開法寺の調査が大きく進みました。塔の礎石（柱を支える石）は現在でも見学可能です。